



前橋育英高校報

題字 中村有三 学園長

建学の精神 ～正直・純潔・無私・愛～

学園トップ対談



黒澤(司会) 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。群馬育英学園の中村義寛理事長、中村有三学園長をはじめ、平成28年4月より育英短期大学の学長に就任いたしました石井學長、前橋育英高校の竹淵敏校長の4名に参加していただき現状と課題・高大連携今後の方針をテーマに話しを聞いていきたいと思えます。

■現状と課題

竹淵校長 議題の現状と課題ということですが、これは明らかに少子化ですね。極端な少子化が更に加速するということが、今後10年間の間に五千人近くの十五歳人口が減っていく。公立等は地域ごとの統廃合が進んでいるが、私立の現状では具体的な話し合いもなされてなく、各学校ごとの課題になっている。これに立ち向かうには進学特化が必要で、今の前橋育英はスポーツの育英というイメージが強く一つの大きな財産になっている。今後もスポーツ面で

は成果を出しつつ、進学面も先生方により一層頑張っていたことが現状であり、これをどの様に具体化していくのが課題といえるでしょう。

石井学長 校長が話した様に少子化が進んでいくなかで、全国的に言えることは高校・大学とも経営に於いての厳しさが増している。この中でどう生き残るかはスポーツ・進学、つまり文武両道が重要になってくる。スポーツについては嬉しいことに就任して早々に夏の甲子園出場、今度の春の選抜甲子園も出場の可能性が高いということで大変喜ばしい。後は進学に一層の努力が必要になってくる。高大連携という面で大学としては出来ることがあれば今後協力していきたい。育英高校から育英短大への進学が一番嬉しいことですね。

中村理事長 育英学園の中で幼児教育とスポーツ教育は2つの大きな柱になっている。今まで保育の面では高校・短大と連携していましたが、これからより一層の深い連携をしていくことと、地域に根付いた学校を作っていくこと。この先の少子化の中で定員を確保するには地域の力が必要になってきますし、進学に力を入れることで中学生にも興味を持っていただき入学してもらえればこの先の少子化でも生き残っていけると考えています。



中村学園長 昭和30年代高校急増期に中学浪人をなくするため、育英高校を創設した。周辺に住宅が増え幼稚園の要望が高くなり、別法人で幼稚園を開いたが教職員の不足に悩まされ、高校に保育科、保育専門学校を創り、数年の後短大に昇格、5カ年一貫教育で幼稚園教諭を輩出して実績を挙げた。建学の理念を基本に、「常に国際的視野に立て」をモットーとして今日を迎えた。

■高大連携について

竹淵校長 高校としては大変恵まれている環境にあると思います。同一法人に短大があつたり別法人ではあるが幼稚園や育英メデイカルがあり、いろんな部分で外部から手伝っていたり出前授業をしてもらったりと利用できる部分がたくさんある。使うべき材料や人的支援を含めて交流がなされてこなかった。が、最近は短大の方と交流がとれているので、これから期待できるし、今後様々な交流をすることでお互いを知ることが出来る。知ること一番大事なこと、連携が深まることでお互いにより良い関係が作れると思う。まずは教職員同士の交流を増やすことで高大接続がより繋がっていくであろうと期待している。

石井学長 学園の建学の精神は道徳を通しての人格形成にある。高大連携については短大の先生と高校の先生が連絡協議会を作つて話し合っていくという事で全国のモデルケース校として高大連携はどうあるべきか考えてみてはどうか。

中村理事長 短大と高校はあまり連携が出来なかつたが、ここ数年連携が

CONTENTS



特集 1～3面

- ・ 学園トップ対談
- ・ 卒業生教諭情報交換会
- ・ 地域懇談会
- ・ 進路/スポーツ実績



保護者会だより 4・5面

- ・ 進路の日・全国高P連大会
- ・ 進学合宿
- ・ 県保護者会連合会学校見学会
- ・ 吹奏楽部 定期演奏会
- ・ 体育祭・マナーアップ運動
- ・ 前橋まつり巡視



同窓会だより 6面

- ・ 同窓会長挨拶
- ・ 私の近況報告
- ・ 親子二代同窓生
- ・ 同窓会ホール完成



後援会だより 7面

- ・ 後援会長挨拶
- ・ 総会報告
- ・ 優秀前橋育英生
- ・ 援助金贈呈式
- ・ コラム育英II



トピックス 8面

- ・ 全国大会出場決定
- ・ 硬式野球部 関東大会
- ・ ボランティア部活動報告

とれてきた。保育、スポーツは連携がとりやすくなっているのが今後伸びていきたい。教員養成の面でも地域に良い教員を送るには今後育英高校との連携は不可欠になっていく。

中村学園長

基本は道徳で教育は素晴らしい人格者を作ることが基本。以前同じキャンパスに保育専門学校があり5年かけて教育が出来ていた。勉強が得意不得意ではなく、それぞれの長所を持っているのだから、これを伸ばしていくことが人間教育の基本で先程学長が言ったように基本は道徳になつていくのではないかと考えられる。それぞれの能力、希望に応じての教育をしていくことがあるべき姿だと思っている。

■ 今後の方針



竹淵校長

先程、学長と学園長からお話しがあったように、建学の精神が私学の根底であり、よつて立つ所の哲学である。「常に国際的視野に立つて」ということが今後重要なキーワードになっていく。これからは2カ国語ぐらいは勉強してマスターし

ていかないと国際人とは言えないのではないかと。少なくとも英語に関しては資格が取れるよう朝の学習時間を英語に当てたりと、国際人を育成する為の基礎的な力を身につける事が大きな目標になっていくだろう。

具体的には語学力の強化が一つの特化した教育である。現状英語の先生には全員に最低でも英検準1級は取つてほしいとお願ひしているし、先生方が力をつけていく姿を生徒たちに見せられれば浸透していき目標・説得力にも繋がっていく。



石井学長

私の基本的な考えとして、教育とは勉強が苦手な子も伸ばすことが重要だと思つている。短大の先生達にも大変なことだけと教育だから頑張つてほしいと言つている。これから高校も少子化で大変になつてきますが、先生方には勉強が苦手な学生を出来るようにするのだという気持ちを持って教育に取り組んで行つてもらいたい。

中村理事長

今後の学園の理想像は小学校・中学校・大学を作り幼稚園から大学までの一



貫した教育を作り上げて行きたい。早い時期に叶うとは思われないが少しずつ進めていき最終的には目標を達成したい。

中村学園長

今、理事長が言ったように理想はほとんど膨らんでいき、ついて来るものである。やがては一貫教育を目指したくなる。高校創立後50年が経ち、ようやくそのような姿が見えてきた今後の50年の間に理事長が言った理想を叶えてもらいたい。願えば出来る、「夢ありてこそ叶える」ことが出来る。始めの50年これからの50年ということで将来の育英学園は素晴らしい夢を全員で持つて夢に向かつて進んで行つてもらいたいと考えている。

黒澤

対談のまとめになりますが、現状の課題として今後の方針についての熱い思いを各先生から聞くことが出来ました。また群馬育英学園全体で夢に向かつて進んでいくという明確な目標が浮き彫りになりましたので、今後の群馬育英学園の発展に期待して行きたいと思つています。本日はご協力有難うございました。

卒業生教諭情報交換会 vol.5 ~教育現場から期待すること~ 11月16日(水)

教育現場では進路指導、マラソン大会や各種の行事、部活動の各種大会等大変忙しい中、今年も卒業生教諭情報交換会が盛大に行われました。出席頂いた先生方は年齢層も幅広く学校内での立場も様々ですが、日々全力で生徒達と向き合い、素晴らしい指導をされている様子が感じられ、とても頼もしく、また、活躍の様子にうれしく思つ一時でした。

金子先生

会に先立つて竹淵校長より「先生方の後輩である現役前橋育英生達も頑張つています。先日も地域のイベントに呼ばれたダンス部や、柔道部が一生懸命与えられた仕事をこなし、とても感謝されました。新聞等で取り上げられない目に見えないところでも頑張つているのです。今日は様々なお話を聞かせて頂けるので楽しみにしていますのでよろしくお願ひします。」と挨拶があり、各先生方の近況報告から始まり、会は大いに盛り上がりしました。

岩崎先生

現在の育英高校は生徒の質がとても良いと思つています。今後生徒減期に入つても何とかポーターラインは下げないで、スポーツだけでなく、東京大学に行きたいと考える生徒を募集し、前橋育英ブランドを益々高めて欲しいです。

関上先生

利根沼田地区は私立への進学は少ないですが、野球が盛んで野球部の子ども達は私立も考える子がいます。野球部の生徒達の間では前橋育英高校は選手を育てる学校で、他の私学は県外の生徒を集めて強くする学校と思われているようです。

横溝先生

現在は小学校に勤務し、楽しく毎日を過ごしていますが、柔道一筋で頑張つてきたので、中学校に転勤して柔道部を指導したいです。中学校に転勤できたら何かとお世話になることが多いと思つています。よろしくお願ひします。



金子先生



横溝先生



中川先生

【中川先生】私も小学校に勤務しています。6年生の担任をしています。将来のことについてはまだ考えていません。しかし、「先生はこの高校出身ですか。」と質問され「前橋育英だよ。」と言うと「ワーツ、すごい」と反応します。子ども達にも前橋育英への憧れはあるようです。一方、私の住まいは新前橋に近いので前橋育英生の登下校の様子は毎日見かけます。並列走行の自転車が多く目につき危ないなと感じています。地域住民の声として指導して頂けたらと思います。

【三澤先生】他校の説明会に生徒を引率して出かけると、それぞれ素晴らしい施設を紹介され魅力のなさと感じることもありますが、最近の前橋育英生はとても凛々しく見えます。これが私の願ひでありましたし、そうあり続けて欲しいです。

他にもまだまだ多くの貴重なお話を頂きました。ありがとうございました。

最後に山田副校長より、「先生方は前橋育英高校の卒業生であることにプライドを持ってもらえる。とてもうれしく思うと同時に、私達も更に頑張らなければならぬ」と感じました。本気で頑張りますので今後ともよろしくお願ひします。」と、まとめの挨拶を頂きました。

進路

～きっと見つかる、色んな夢～

過去3年間進路実績

大学合格者数 **477名** (現役438名)

国立・準大学合格者数 **53名** (現役46名)

私立大学合格者数 **424名** (現役392名)

進路の日Ⅰ類

Ⅰ類「進路の日②」は例年現役東大生講演会という名目で講演会を実施していますが、実際には東大卒業生や別の難関大生等の話を聞いてもらう行事に留まっています。しかし今年、経済学部三浦さんと法学部山磨さんという、共に東大3年の現役生による討論会を実施しました。生徒の感想からも反響が多く、特徴的だったのは東大生といえどもいわゆるガリ勉タイプではなく、親近感の持てる方だったということでした。但し、早いうちから努力することの大切さが殆どの生徒の感想文から伺えました。

進路の日Ⅱ類

Ⅱ類「進路の日②」は今年も地元国立大学「群馬県立大学」前工大生理工、高経大地域政策、県女大(国文)に在学する4名の本校卒業生を招いたシンポジウムを実施しました。参加した生徒の感想を見ると、「自分たちと同じⅡ類卒の大学生の話聞いてとても刺激を受けた。」「先輩方は皆、早くから目標を持ち、SPや定期試験に向けて集中して勉強を続け、それが進路実現に繋がるのだということが分かった。」「という内容が多く、改めて「Ⅱ類生が目指すべき進路」を実感できた様子でした。

校外夏期進学合宿を終えて

今年7月20日から23日の日程で行いました。参加した14名の生徒たちは自分で立てた学習計画に沿って先生方に何でも質問できる環境のもと、4日間合計36時間の学習をやり遂げました。この期間は夏休み学習のウォーミングアップに過ぎません。自分の精神が試されるのは家庭学習になってからです。最終日にはそれぞれの意気込みを語ってくれました。

大学見学を終えて

今年10月13日の日程で大学見学を行いました。普通科12クラスの生徒たちがそれぞれの訪問先を考え、東京と埼玉の合計19の大学から協力を頂き、実施する運びとなりました。当日は曇り空ではありましたが、1年生にとって初めてのキャンパス見学ということもあり、実際の大学施設や学生の雰囲気を観察するとともに、進学意識を高めることが出来た様子です。

本校では毎年2回、地元自治会朝日が丘町、上新田町、光が丘町、大利根町の役員の方々をお招きし、「地域懇談会」という情報交換の場を設けています。去る6月30日に開催した第1回の懇談会では、通学時の自転車通行マナーの改善や、大規模災害発生時の避難場所提供等について自治会の皆様よりご要望がありました。11月15日に開催した今年度2回目の懇談会では、地域の文化祭や夏祭りへの本校生徒の参加に対して感謝の言葉を頂きました。本校では、日頃の練習成果を発表し貴重な体験を積む学びの場と捉え、今後ともご協力をさせていただきたいと考えています。懇談終了後、参加された



地域懇談会を開催

皆さんには第一体育館、体力トレーニング室やこの秋完成した同窓会ホール等を見学していただきました。今後とも地域の方々との情報交換を活発に行い、皆様に親しまれる前橋育英を目指していききたいと思

スポーツ実績 2016 Summer~Autumn

陸上競技部

全国高等学校総合体育大会
陸上競技大会

男子
【棒高跳】小池祐馬(3年) 4m90 6位
【走幅跳】千吉良一輝(3年) 7m23 9位

2016希望郷いわて国体
第71回国民体育大会

男子
少年男子A
【400m】細井ライアン(2年) 出場
【棒高跳】小池祐馬(3年) 4m80 8位
【走幅跳】千吉良一輝(3年) 出場

女子
少年女子B【800m】伊井笑歩(1年) 出場

第51回群馬県高等学校総合体育大会
男子
駅伝競走の部 3位

サッカー部

男子
第95回全国高校サッカー選手権大会
群馬県大会 **優勝**

女子
全国高等学校総合体育大会
サッカー競技大会 ベスト8

群馬県高等学校
女子サッカー選手権大会 **優勝**(関東大会出場)

第25回関東高等学校
女子サッカー選手権大会 4位

バスケットボール部

男子
第47回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会(ウィンターカップ)県予選会 **優勝**

水泳部

男子
第51回群馬県高等学校総合体育大会
競泳 学校対抗 **優勝**

全国高等学校総合体育大会
水泳競技大会

【100mバタフライ】田中優弥(3年) 54秒28 7位
【1500m自由形】高橋洗輝(2年) 15分32秒80 3位

2016希望郷いわて国体
第71回国民体育大会

少年男子A
【50m自由形】田中優弥(3年) 出場
【100m自由形】田中優弥(3年) 出場
【400m自由形】高橋洗輝(2年) 出場
【400m個人メドレー】高橋洗輝(2年) 4分30秒60 7位
少年男子B
【100mバタフライ】久保田健太(1年) 出場
【200m個人メドレー】浮島知藤(1年) 2分06秒88 6位
飛込 少年男子【高飛込】倉知諒(2年) 出場

2016ジュニアパンパシフィック水泳大会
【1500m自由形】高橋洗輝(2年) 15分37秒02 5位
【400m個人メドレー】高橋洗輝(2年) 出場

ウエイトリフティング部

第18回全国高校女子ウエイトリフティング選手権大会

女子
【48kg級】原沙織(1年) トータル124kg 6位
【58kg級】寺島奈穂(3年) トータル158kg **優勝**

剣道部

全国高等学校総合体育大会
剣道大会 男子団体 出場

県高校対抗選手権大会
男子団体 **優勝**
男子個人
関根慶太(2年) **優勝**
田中雅浩(2年) 3位

柔道部

全国高等学校総合体育大会
柔道大会

女子個人
【57kg級】川端千晴(1年) 5位

女子テニス部

全国高等学校総合体育大会
テニス競技大会

【シングルス】渡辺理子(3年) 出場
【ダブルス】渡辺理子(3年)、湯浅里帆(1年) 出場

2016希望郷いわて国体
第71回国民体育大会

少年女子
【団体】渡辺理子(3年)、湯浅里帆(1年) 出場

女子ソフトボール部

新人大会 2位
*東日本高校ソフトボール大会出場

ゴルフ部

2016希望郷いわて国体
第71回国民体育大会

女子
【団体】石川菜夏(1年) 出場

硬式野球部

第69回秋季関東地区高等学校野球大会
ベスト4

ラグビー部

2016希望郷いわて国体
第71回国民体育大会
綱引き(公開競技)群馬県代表 2位

レスリング

全国高校生グレコローマン選手権
【60kg級】苗木薫(3年) 出場

2016希望郷いわて国体
第71回国民体育大会
【60kg級】苗木薫(3年) 出場

保護者会だより

第二回 進路の日

Ⅲ類・Ⅳ類・保育科

進路指導委員長 神宮有紀

9月12日、第2回「進路の日」が実施されました。Ⅲ・Ⅳ類・保育科の生徒を対象に今年で3年目となる「保護者会・OBOGの協力による職業観育成ワークショップ」が開かれました。

今年度は保護者等が各クラスに分かれ、自身自身の社会体験をもとに「将来の就職までに知っておくべきこと」をテーマに話していただきました。生徒たちは、保護者の真剣な話に熱心に耳を傾け、目を輝かせていました。一方、講話を終えた保護者は皆、達成感を感じていました。

今回の体験談は生徒達にとって良い経験になり、将来への希望になったものと思います。



進路部主任 阿久津 広嗣

毎年ご好評頂いている普通科Ⅲ、Ⅳ類及び保育科の「進路の日②」は今年度、昨年よりも多くの保護者様のご協力を頂くことが出来、全学年各教室や選択室を使った「職業観育成ワークショップ」を実現することができました。生徒と講演者がより近い距離で双方向の交流が出来たとあつて、生徒からの感想文にも、また保護者の皆さまからの感想文にも本当に満足した内容が綴られていました。講演内容は「将来の就職までに知っておくべきこと」で、職業とは自分の興味関心、能力適性が活かせて、自己実現と社会貢献が同時に達成できるのがベスト。しかし現実はその



うならないことも多いが、仕事に打ち込む過程で社会や人との関わり方を知り、やがて価値観や生き甲斐を感じていくものだ。という実社会を生きる保護者の皆さんならではの貴重なお話を頂きました。



2年8組 須藤 美咲

保護者代表の講師の方々のお話しを聞き、「今頑張らないと後悔する」や「社会でも高校生活でも同様」の言葉が

強烈な印象として心に残っています。

自分に合った就職先を見極められるように、「今」を大切にしなければいけない事を改めて思いました。

今回講演して頂いた保護者の皆さん、貴重なお話しを有り難うございました。

進学合宿を激励

進路指導委員長 神宮有紀

猛暑の中、7月20日から4日間、新潟県津南町にて進学合宿が行われたたくさんの方の生徒が参加しました。

初日の出発式では、同行する先生方の気合いも伝わり、校内学習の先生方からの激励もありました。今年度も、保護者会より果物、ドリンク等の差し入れを行い、その後、保護者会長以下多くの役員でバスを見送りました。



全国高P連 千葉大会に参加して

会 計 黒澤 肇



大会のテーマは「再発見！愛」！今こそ信じよう愛の力で！でした。コミュニケーションの多くがSNSを介して行われる様な時代になり、人との繋がりが稀薄なものになってしまいがちです。しかし学校は生徒が集団で学び合う場です。表情を見て相手の心情をくみ取る力が育ち、心の通うコミュニケーションが生まれてきます。今こそ原点に立ち戻り、子供達に人と人との「ふれあい・かわりあい・つながり」の大切さを教え、支えていく。そして「学校・家庭・地域社会」との「愛の絆」を確かなものとする為に、大人が出来る事は何か？と様々な提案がなされた2日間でした。

学校見学会に参加して

副会長 増田 麻衣子

10月21日、東京農業大学第二高等学校において群馬県私立小・中・高等学校保護者会連合会の学校見学会が行われました。村校長先生からご挨拶を頂いた後、新島学園中学・高等学校PTAからは、キリスト教精神を教育の基とする新島襄の教育理念に深く根ざした特徴ある学校紹介がありました。農大二高保護者会から希望進学の3コース制の説明があり、生徒一人ひとりに合った学習内容で、大学への進学にきめ細かな指導がされていると感じました。学校内の見学の後、吹奏楽部による心温まるマーチング演奏を聴き、感動いたしました。



吹奏楽部

第43回 定期演奏会を終えて

指揮者 熊井 正之

2002年、前橋文化会館で第29回定期演奏会を開催し、以来今年2016年9月22日にベイシア文化会館に於いて第43回目を開催する事が出来ました。29回では3年生なしの24人という編成でしたが、43回では3年生13人、2年生13人、1年生18人、計44人で毎年もう少し人員が増えないと演奏上苦しいと思いつながら、活動して参りました。

定期演奏会は、1年間頑張った部員達の集大成の場であり、3年生達の最後の活躍の場でもあります。技術的には多少不安定感はあるものの、いつも一生懸命に演奏する努力はそれを乗り越えるのだと思います。



クラブ活動を通して自主性が高まり、部員同士が協働しあつて人間的にも音楽的にも豊かな内容のある心を持つ人間性が育まれます。今回の定期演奏会は、沢

山の皆さんに応援して頂いて会場一杯になりました。音楽そのものは教える事は出来ません。聴く事によって美しさ、楽しさを感じることが音楽そのものだと思います。1年中暑さ、寒さに耐え「夢」に向かつて頑張ることこそ、クラブ活動の究極の目標だと思います。



44人で作り上げた定期演奏会

部長 小林 眞子

定期演奏会を終えて、私は少人数バンドだからこそ、一人一人の出す音が大切だと学びました。練習中は、意見のぶつかりや全員揃って合奏することが難しいこともありました。しかし、部員44人で本番成功することができ、最高の定期演奏会になりました。

体育祭 10月25日(火)

体育祭実行委員

委員長

3年6組

長谷川 寛真

副委員長

3年10組

榎木 愛華

2年A組

吉田 楓

1年9組

北原 翔



体育祭を終えて

体育祭実行委員長

3年6組 長谷川 寛真

今回の体育祭は、小雨がぱらつくことがありましたが本降りになることはなく、予定されていた競技を全て実施することが出来ました。

体育祭を通して私が改めて感じたことは、友人と共に目標に向かって頑張ることの大切さです。競技に参加して勝つために頑張った選手はもちろん、体育祭を成功させるという目標に向かって動いてくれた生徒会総務や実行委員も、本当に頑張ってくれたと思います。私も選手宣誓という大役を任せました。友人が内容を一緒に考えてくれたおかげで、その責任も無事果たすことができました。

前橋育英高校での思い出の一ページとして、皆さんが今回の体育祭を楽しんでくれていたら、実行委員長として本当に嬉しく思います。



体育祭を振り返って

体育委員長 黒田 徹

体育祭を初めて観させて頂きましたが、先生方や生徒の皆さんが本当に楽しんでいる姿を観て、改めて前橋育英高校は良い高校と感じました。3年生にとつては、高校生活最後の体育祭という事もあり、クラス単位で盛り上がった姿や応援している様子を観ても感動させて頂きました。途中雨が降ってききましたが最後まで競技が実施できて良かったと思います。

体育祭実行委員の皆さん、楽しい体育祭を観せて頂きありがとうございました。これからも文武両道の前橋育英高校を応援していきます。

マナーアップ運動

生徒指導副委員長 奈良 恵利子

生徒の皆さんが安全に登校できる様、年に3回、保護者会役員・先生方の協力のもと、マナーアップ運動を実施しています。

事故は未然に防げます。登校時は時間にゆとりをもち、交通規則を守って通行しましょう。

前橋まつり巡視

生徒指導委員長 二渡 松子

10月8日(土)前橋まつりの巡視が行われました。今年には本町の八幡宮に集合し4班に分かれて出発しました。沢山の保護者の御協力もあって順調に行われ、巡視中数組の生徒に会いました。口頭での声掛けでしたが意識づけができたのではないかと思います。今後とも生徒の為に協力していきたいと思えます。



前橋育英

雄渾

同窓会
だより

一歩一歩前進

同窓会長 新井 信雄
(第3期生・昭和43年卒)



会員数2万3千名を越す、前橋育英高等学校同窓会の皆様、日頃より格段のご配慮、ご支援をいただき心より感謝申し上げます。ご存じの通り、前橋育英高等学校は文武両道を基本とし、日々高い目標を掲げ邁進を続けております。同窓会としても高校に引けを取らないよう、新たな半世紀に向かって県下一の同窓会を目標として活動していく所存でございます。

さて、今年度も前橋育英高等学校の活躍は目を見張るものがありました。運動面では硬式野球部の第98回全国高等学校野球選手権出場が顕著なものでした。レベルの高い群馬県大会を激戦の末勝ち抜き、優勝したことは大変喜ばしいことでした。彼らが一戦ずつ力をつけ、劣勢になっても、臆すること無く難敵を撃破する姿には、感銘を受け、応援にも力が入りました。その際には第95回大会での全国優勝が選手たちに大きな夢と希望を与

えているのだろうか」と確信します。

また10月に栃木県宇都宮市で行われた第69回秋季関東高等学校野球大会にも群馬県第一代表として出場し、逆転の前橋育英と言われるほど緊迫した試合を勝ち抜き、準決勝まで駒を進めました。この結果、来年3月に開催される全国選抜大会出場へ大きく近づき、同窓会としても吉報を待ち望んでいます。その他の部活動でも輝かしい活躍がありました。男子バスケット部は全国選抜優勝大会(ウインターカップ)への7連連続11回目の出場を決め、男子サッカー部も群馬大会を順調に勝ち上がり、3年連続20回目の全国選手権への出場を果たしました。

文化面では、吹奏楽部、放送無線部、演劇部、華道部が県内外でさまざまな活躍をしています。またボランティア部を中心に清掃、募金、ボランティア活動に積極的に参加し、地域社会から厚い信頼を受けています。

また、同窓会の創立以来、悲願であった同窓会ホールが11月に完成しました。当初は同窓会館建設を目標にしていました。しかし、学校側との話し合いの結果、同窓生が母校を訪問したときに談笑できる場所、在校生や教職員が活用できる場所を主要なコンセプトに同窓会ホールの建設に結びつきました。このホールは同窓生、在校生、教職員、学校関係者のすべてが活用できるもので

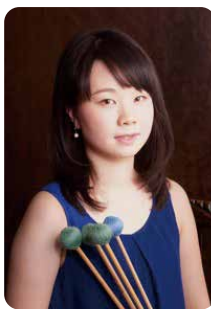
す。同窓生の皆様も来校の際にはぜひお立ち寄りください。

最後にありますが、同窓会も学校同様、一歩一歩前進していく所存でございますので、会員の皆様により一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

私の近況報告

音楽家という職業

(第45期生・平成22年卒)
阿久澤 美和



貴方の職業は何ですか? と、もし聞かれたとしたら、私は「音楽家」と答えます。今はまだ駆け出しではありますが、「マリimba」という大型木琴など打楽器のプロとして演奏料を頂き活動しています。主な活動は自主公演企画やゲスト演奏です。また教育機関で音楽指導なども行っています。最近では音楽監督の先生にご指導頂き、立ち上げたグループでレコーディングを行いました。CD化が実現できそうです。しかしこういって活動をを行う中でも、より良い音楽を作るために忘れてはいけないのは「自分磨き」です。人はない

同窓会ホール完成

ものを「出す」ことはできません。学生でなくなっても一生勉強と私は肝に銘じています。幸い手本となる方が近くにいらつしやるので、今の環境を大切に、周りに感謝の気持ちを持たず、周りからも精進していく所存です。今の自分の夢は、コンクールで優勝することそしてより多くの方に自分の音楽をお届けすることです。千里の道も一歩から、自分を信じて一歩一歩前進していきたいです。



この度、平成28年11月4日に同窓会ホールが完成しました。長年、同窓会としては同窓会館建設を計画していましたが、学校関係者と検討した結果、年に数回使用するものよりも毎日在校生が使用でき、同窓生も気楽に立ち寄れるホール式のもの建設することになりました。

りました。四方がガラス張りのため、明るく開放感があります。ホール内にはテーブル27台・イス145脚が設置され、昼休みには多くの生徒が食事をとめることができ、会話を弾んでいるようです。同窓生の皆さんも来校の際は、お立ち寄りください。

親子二代同窓生



大崎 さやか
(第29期生・平成6年卒)
ありす
(保育科3年)

娘が前橋育英高校に入学してから、早いもので3年になりました。私が高校を卒業してから約20年、当時お世話になった先生方に、今は娘がお世話になっております。自分の娘が、同じ高校に通うことになると思ってもいけません。私は高校卒業後、育英

短大の保育学科に進学しました。その後は保育士をして、短い期間ですが保育の仕事に携わってきました。高校時代は自由気ままにしながらも友人達と日々貴重な経験をし、かけがえのない時間を過ごしました。今の子供達の姿を見ると、当時の事を懐かしく思います。

娘達は来年の卒業を前に、将来を決める大事な時です。これから社会人になる為の一歩を歩み始めたばかりです。目標を達成できるよう、そしてその夢が叶うよう、残り少ない時間ですが、充実した高校生活を送って欲しいと思います。



予告

平成29年度 同窓会定期総会

日時 平成29年7月1日(土)
午後5時より
場所 エテルナ高崎

同窓会の皆様奮ってご参加ください。

詳細については来年4月以降にホームページに掲載しますのでご覧下さい。

後援会だより

ゴールを目指して

後援会長 福島 英人



今年は何年、オリンピック開催の歳でした。南米リオデジャネイロは大いに湧き上がり、日本選手団も活躍華々しく、金銀銅のメダル総数は過去最多の41個を記録しました。その中で柔道カナダ代表として、レイズ・カヨル君が出場したことは、我が前橋育英に新たな歴史を作ってくれたことだと感激しています。引き続き開催されたパラリンピックでは、金メダルは無かったものの、合わせて14個の銀・銅メダルを獲得しました。

私はオリンピックもさることながら、パラリンピックには本当に感動しました。彼らのあのエネルギーの源はどこにあるのか、そして不可能とも思えることを、私たちが以上に容易く行つて

しまう技の習得は如何にしていたのか、心を奪われてしまいました。過去アテネと北京大会で活躍し、北京ではオリンピックにも出場した、女子障害者競泳のナタリー・デュトワ選手は、『ゴールにたどり着けないことが悲劇なのではない。たどり着こうとするゴールを持たないことが悲劇なのだ。』と、言っています。

後援会の目的は、建学の精神である『正直・純潔・無私・愛』を基盤として、社会に求められる卒業生を送り出し、併せて前橋育英の発展に寄与するところにあります。生徒各自が育英で学

ぶ3年間の中で、卒業時のゴールを設定し一歩ずつその達成に向けて着実に努力できるように、後援会として側面から協力してまいります。日々生徒指導にご尽力いただいている先生方に心から感謝を申し上げますと共に、前橋育英の更なる発展を願ひ、皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成二十八年度
後援会定期総会
7月15日(金)ラシーネ

副会長 伊藤 昌司

平成28年度定期総会が、7月15日(金)、ホテルラシーネ新前橋で開催されました。今年度の議事も原案通り承認されました。2年目を迎える福島会長のもと、土台のしっかりとした伝統校の後援会としての力強さを感じました。

懇親会の後半では、甲子園出場を祈念し、応援に向けて大いに盛り上がりました。後援会は、未来を担う子供達のための応援団です。今年度の総会は32名の参加者で慎重審議致しましたが、来年度は是非50名以上の参加者で大いに総会を盛り上げたいと思いますので、役員皆様方のご参加をお待ちしております。



平成28年度「優秀前橋育英生」

今年度の「優秀前橋育英生」は、次の生徒達に贈られます。表彰式は12月22日終業式後に執り行われます。

ウエイトリフティング部 寺島 奈穂(3-1)

第31回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会 58kg級 優勝

第18回全国高等学校女子ウエイトリフティング競技選手権大会 58kg級 優勝

水泳部 高橋 洸輝(2-11)

2016ジュニアパンパシフィック大会(アメリカ・ハワイ) 出場

女子サッカー部 小暮 千晶(3-10)

FIFA U-17女子ワールドカップヨルダン2016 準優勝

放送無線部

乙丸 沙枝(3-3)

岡田 真澄(3-3)

第40回全国高等学校総合文化祭 アナウンス部門 出場
第63回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門 出場

学校後援会援助金贈呈式

教頭 神山 義幸

7月19日、後援会クラブ活動援助金贈呈式が行われ、後援会組織のある20クラブに対し福島後援会長より援助金が贈呈されました。また、福島会長より激励の言葉として、リオ五輪の話題を盛り込んだ大変示唆に富んだお言葉を頂きました。高橋ありがとうございました。高橋剣道部顧問からのお礼の言葉の中にもありましたが、各クラブともこの援助金を生徒のクラブ活動がより充実するように有効に使ってほしいと思います。



コラム育英Ⅱ
2020年夏季東京
オリンピック開催

一生に一度、運が良ければ二度、自国で体験できる一大イベントの夏季オリンピック。私たちはどんな自分で迎えるのでしょうか？各競技に代表として参加できる人、関係者として運営の仕事をする人、観戦に行き応援する人など様々な体験が作り出される事となるでしょう。各競技で代表を目指し目標に進んでいる選手はすでに体験記が始まっているのではないのでしょうか。1964年夏季東京オリンピックを体験した人は二度目の体験ができます。前回と比較しながら開催を楽しむ事ができると思います。競技を楽しむ競い合う真髄を楽しむ事は変わらないけれども、やはり時代の変化と共に大きく変わった体験ができるのではないのでしょうか。(〇記)



全国大会 出場決定!!

女子サッカー部

第25回全日本高校女子サッカー選手権大会出場

監督 大手 真智子

この度、たくさんの方々の応援のおかげで3年連続全日本高等学校女子サッカー選手権大会に出場することが出来ます。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

今年は「Break the limit!!」を掲げ、一生懸命に努力してきました。昨年の悔しさを胸に、夢の舞台で闘える喜びと多くの方々への感謝の気持ちを持って、一戦一戦チャレンジャーとして闘ってきます。遠い兵庫県にたくさんの方々の熱い応援をよろしくお願い致します。



第25回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

2016/12/30(金)～2017/1/8(日)
ノエビアスタジアム神戸ほか

男子サッカー部

第95回全国高校サッカー選手権大会出場

監督 山田 耕介

「初戦敗退からの逆襲」今年度関東大会予選、インターハイ県予選、共に初戦敗退という選手達にとっては考えられない結果になってしまった。ここから彼らが這い上がってきた。夏からの真摯な態度で臨む姿勢はすばらしく、チームとして、個として何をしなければいけないのか自覚し、全員で取り組んできた。自分達で話し合い、常に前を向き努力してきた姿は、全国に向け大きな力になると確信する。がんばれ前橋育英サッカー部。



第95回全国高校サッカー選手権大会

2016/12/30(金)～2017/1/9(月・祝)
埼玉スタジアム2002ほか

男子バスケットボール部

ウィンターカップ2016出場

監督 加賀谷 寿

3年生の選手がいない中でこの1年で、インターハイ予選準決勝では屈辱的な負け方をしましたが、練習や遠征等を繰り返しながら着実に力をつけ、チームが良い方向に成長出来たと思います。ウィンターカップ県予選決勝は苦しみながらも勝利し、全国大会出場を手にすることが出来ました。選手、保護者、スタッフが一つになって戦った結果であると思います。またご声援いただきました方々には感謝申し上げます。

本大会では泥臭く最後まで諦めない姿勢で頑張りたいと思いますので、応援よろしくお祈りします。



第47回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会

2016/12/23(金・祝)～29(木)
東京体育館

ボランティア部

敬老の日訪問 9月20日(火)

グループホームへお祝いに伺いました。いつまでもお元気でという願いを込めて、手作りカレンダーとお花をプレゼントしました。



青少年赤十字海外派遣事業

青少年赤十字では「国際理解・親善」として、海外のメンバーと交流を深めています。今年是中国からの留学生2名が群馬県を訪れました。そのうち1名がボランティア部1年栗原さんの家庭へホームステイを行いました。また、茶道部にも協力して頂き、日本文化を共に体験しました。



ぐんまマラソンボランティア活動

11月3日(木・祝)

昨年に引き続き、第26回ぐんまマラソンにおいて、給水・給食を行いランナーがゴールまで気持ちよく走り切ることができるように、精一杯声援を送りました。



硬式野球部

第69回秋季関東地区高等学校野球大会

10月22日(土)～30日(日) 宇都宮市 **ベスト4**

- [1回戦] vs 白鷲大足利(栃木3位) 6-5
- [準々決勝] vs 慶應義塾(神奈川1位) 4-3
- [準決勝] vs 東海大市原望洋(千葉1位) 3-5



部長 中沢 洋一



2年ぶりの出場、群馬1位として臨んだ秋季関東大会。初戦、準々決勝共に、序盤に3点を先行されたが、打線が粘り逆転勝ち。「甲子園で校歌を歌う」という目標を持ち続けて挑んだ準決勝では、相手にビッグイニングを作られ、その後の粘りも届かず敗戦。全国レベルの投手相手に、ここというところで飛球に打ち取られてしまった。

関東での3試合、この貴重な経験を冬のトレーニングに活かし、更なる前進の糧とします。ご声援、ありがとうございました。

編集後記

文化副委員長 桑原 泉子

幾つもの輝かしい前橋育英生の活躍・学校行事・各会の惜しめないサポート・保護者会活動等本号を通して感動を、そして情報をお伝え出来たでしょうか。原稿依頼を快諾して下さった方々には感謝申し上げます。皆様のご協力のもと、編集に携わる機会が与えられました事に喜びを感じておりますと同時に次号も注力する所存です。

合同誌広報委員

保護者会 増田 麻衣子

高学後同 援窓
校園会会

塚真磯唐岡安神黒小磯山大吹生原大望角原青佐生篠佐桑 増
田下田沢上達山澤棕田田西上方口塚月田 柳藤方崎藤原 田

由 万 紀
智孝 直友義 靖孝香直知直晃純久昌陽孝孝桂康暁泉
恵紀寿仁美信幸光晃寿里子子子子子子子子子子子子子子子子